



重富小学校 学校便り

剣の平

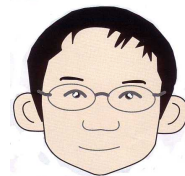
令和5年度 8月号
創立 135周年

(重富小HPアドレス)
<http://www12.synapse.ne.jp/sigetomisyo/>

学校
教育
目標

「進んで学び、思いやりをもって協力し、粘り強く取り組む子どもを育てる」

子供には、もともと「自律する力」が備わっていると思います。



校長 平 千力

夏休み、いかがお過ごしでしょうか。

さて、平成6年だったでしょうか。私は、ある無人島の5泊6日のキャンプに参加しました。参加者は、小5・小6・中学生・高校生・大学生の5人組の班が10班の50人と、指導者〔自然の家職員10名程、医師会の若手医師、養護教諭代表、そして私〕でした。

私は、理科教諭だったので、主に、自然体験や星座観測会の指導者としての参加でした。

初日に、各班に3日分の食料と水が渡されました。残り3日分は4日目に渡されました。職員1名と私は簡易トイレを作り、他は大人も子供もテント作りをしました。

日程は、星座観測やレクリエーション等が計画されていることと、4日目に、島内1周の遠行が計画されているだけで、あとは全て自由行動です。まさに、サバイバルキャンプでした。

1日目は、どの班も「あれがない」「これはいやだ」「したくない」「暑い」「家に帰りたい」等、わがままの言い放題でした。

2日目は、さすがに電気、水のない生活に不安を覚えたのか、泣き出す子供たちがいっぱい出てきました。

3日目は、何を言っても泣いても状況が変わらないので、みんな、無口になり、暗〜い一日となりました。

劇的に変わったのは4日目です。島内1周の遠行です。もちろん、食料・水は限られた分量しかなく、大学生を中心に協力し合って1日過ごすしかありません。

スタート時は、皆、不安を隠せない表情です。しかし、驚くことに、あんなに、わがままを言っていた子供たちが、みんな、譲り合い、助け合い、励まし合っているのです。夕方になり遠行が終わった瞬間は感動に包まれました。どの子も充実した表情で、信頼、友情が生まれていました。

5日目は笑顔、最終日は、感動につつまれ、別れを涙がつつむ日になりました。

私の青年期の夏の体験です。今、このようなキャンプはおそらくできないと思います。あまりにも攻めているキャンプなので・・・。(もちろん主催者は入念な事前調査等を行い、危機管理体制も十分でした。)

学んだのは、不自由を体験する大切さと、子供には潜在的に「生きる力」「自律する力」があり、ある程度任せても、仲間がいれば生きていけること。そして人間は、みんな優しいということでした。

現在は、いろいろなサービスがあり、なかなか不自由さを感じる事が難しい時代です。ですから、このような体験は非常に稀な体験です。私も親になり、この体験を自分の子供にさせきるかとなると、さすがに勇気がいります。しかし、大きく成長するだろうなと思います。

皆さんは、8月、どのような体験をしますか、させますか。9月に成長した姿を見るのが楽しみです。今年の夏は暑いですが充実した夏休みをお過ごしください。